

膝蓋骨脱臼発症後、長期放置された一例

県北支部 飯塚英貴

膝蓋骨脱臼は先天的要因の上に外力が加わり発症するが、自然整復されやすいため見落とされやすい。本報告は48歳女性の症例で、10年以上前の転倒による右膝蓋骨脱臼が見逃された為、長期にわたり膝の痛みと不安感を繰り返した一例です。当院にてApprehension徵候など検査で脱臼後の不安定症が疑われ、整形外科の専門医に紹介。最終的に観血的処置を受けた後、当院で術後の後療により約12週間で日常生活に支障がないレベルまで回復し、膝蓋骨周囲の不安感も解消した。考対して、本例は初診時にX線検査の軸写像や詳細な触診がかけていたため、膝蓋骨脱臼が見逃されたことが長期化の原因となつた。医科受診後、症状が改善されなく接骨院を訪れる患者がいるが、柔道整復師は丁寧な触診と徒手検査にて病態を予測し、必要に応じ適切な専門医に依頼すべきであると考えた。